

# ザ・特定行為実践

第10号  
2024年1月 作成  
特定行為研修室 発行  
森永:PHS3126

藤田 智和：  
所属部署 7階A病棟



## 修了した特定行為

研修：2019年9月修了

呼吸器（気道確保に係るもの）関連

・経口用気管チューブ又は、経鼻用気管チューブの位置調整

呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連

・侵襲的陽圧換気の設定変更  
・非侵襲的陽圧換気の設定の変更  
・人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整  
・人工呼吸器からの離脱

栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連

・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入

動脈血液ガス分析関連

・直接動脈穿刺法による採血  
・橈骨動脈ラインの確保

栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

・持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整  
・脱水症に対する輸液による補正

循環動態に係る薬剤投与関連

・持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整  
・持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整  
・持続点滴中の降圧剤の投与量の調整  
・持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整  
・持続点滴中の利尿剤の投与量の調整

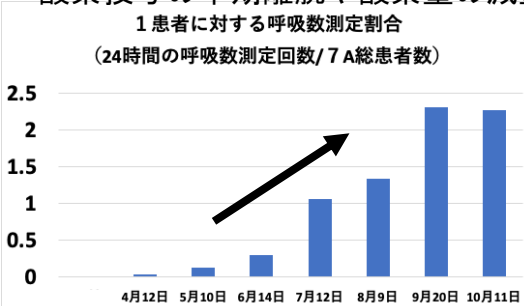


★2019年に特定行為研修を修了し、2023年4月から7A病棟に異動となり半年が経ちました。

★特定行為研修で学んだことは、日々の患者さんの観察、状態悪化の兆候が見られた患者さんの早期対応や医師への報告に役立っています。

★一般病棟では、医師のいない時間も多いため、急変の際医師と連絡を取り直接動脈穿刺法による採血を実施し、早急に患者状況の把握に努めます。

★医師から、侵襲的or非侵襲的陽圧換気療法・高濃度酸素投与の早期離脱や酸素量の減量を依頼されます。治療の効果を確認し、早期離脱のタイミングを逃さないよう努めています。



医師からは「任せたよ」「すぐに行ける時ばかりでないから助かる」など頼りにしていただいています。

★患者さんの急変を未然に防ぐため、バイタルサインの一つである「呼吸回数の測定」に力を入れ、7A病棟全体で測定回数も増えてきました。

★今後も「患者さん中心」に考え、学んだ知識や技術を活用していきます。



基本的に、**所属部署の業務フィールド内・通常勤務時間**に特定行為研修で学んだことを活用し、特定行為実践に取り組んでいます。今後ともご支援宜しくお願い致します。

特定行為研修修了看護師について、何かご質問等がありましたら、森永までご連絡ください。